

令和 4 年度の事業報告書

令和 4 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 3 1 日まで

特定非営利活動法人博心館

理事長 加藤博彦

副理事長 古賀博文

1 事業の成果

令和 4 年度、城内こども塾事業は児童登録者数 7 2 名（支援対象児童 2 8 名）でスタートし、期末は 7 7 名（支援対象児童 3 0 名）となった。昨年度に比べ児童数は増加した。

塾では子どもたちの自己肯定感、非認知能力向上を目的とし、宿題のサポートは毎日行い、書道・絵画・ヨガなどの独自プログラムや、「ライオンズクエスト」、屋外課外授業を定期的に行った。

夏休み冬休みの長期休暇には、新型コロナウイルス感染症対策の為に、計画していた内容通りには実行できなかったが、武雄市の県立宇宙科学館やデイキャンプ、海水浴、農園体験などの課外活動を行った。また協調性などの非認知能力の向上を目的に屋内を中心にプログラムを行った。なお、夏祭り、餅つきなど例年開催されていた地域イベントは新型コロナウイルス感染症対策として当年度も中止になり参加できなかった。

結果として、子どもたちとスタッフの距離も縮まり、子どもたちにとって当塾が第三の居場所として安心できる場になっていると思われる。

スタッフは、教員経験者、児童支援員経験者を含むパートは引き続き在籍し、2 0 2 3 年 3 月末現在 1 3 名となり子どもを見守る体制が維持できている。

よく話を聞き寄り添うことを念頭に見守りを行い、これが自己肯定感向上に重要で、非認知能力向上にとっても大切な要素であると考えます。

スタッフが充実していることにより、子ども一人一人に関わる時間の確保が維持できている。そして子どもたちと深く接する事により、環境に課題を抱えている子どもたちに対しては通常の対応では不十分である事もわかってきた。今後も子ども一人一人を取り巻く課題を明確にし、どのように対応すべきかを皆で十分に検討し対応していくよう努める。

また学力学習の面でも今よりも積極的に関わっていき、子どもたちの更なる自己肯定感の向上に努めていく。

当塾は、ひとり親家庭および経済困窮環境下の子どもたち（支援対象児童）が得ることが困難と考えられている社会的相続を補完することを目的としている。

子どもを取り巻く環境の違いによる「様々な社会的格差」をなくすため、よりたくさん子どもたちが当施設を利用できるよう効果的な対策を考えていきたい。

食事の提供について、現在子どもたちの昼食利用希望者は 5 割程度である。

全般的に塾事業としては、運営体制も整い事業内容も確立していると感じている。新型コロナウイルス感染症対策も継続している。今後も適時改善をしながら利用者に対しより充実安定したサービスが提供維持できる体制を整えていきたい。

ただ塾利用児童数の増加に伴い、子どもたちの心の問題や運営上の問題などいくつかの解決すべき課題も明らかとなっている。日本財団からの運営費助成が前年度終了し、今年度は市県国の事業委託を一部受けているが、資金的に十分とは言えず、事業維持のための更なる収入手段確保も課題

となっており、対策を考え行動している。その一つとして、佐賀県による団体指定のふるさと納税受付を開始することができ、1件のご支援を頂いた。

現在、将来の収入源としては塾事業による収入、食堂事業による収入、地域企業からの事業収入（広告等）、行政からの支援等の活用を考えている。

食堂事業の地域住民を対象とした持ち帰りメニューについては好評で、今後も子どもから年配者まで広く利用できる地域食堂としてテイクアウトに注力し、保護者をはじめとして地域へ広報を行い利用者を増やしていきたい。

他には、子ども達による子どものための地域情報発信事業を企画し、企業広告収入獲得を検討している。今後はこのような地域住民を対象とした事業を確立し、持続可能なまちづくりの一助となるNPO団体として周囲に認知してもらえるよう活動し、今後の事業収入につなげていきたいと考えている。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	事業費の支出金額 (単位:千円)
①子どもの貧困対策に関する事業	<p><u>1-1 子どもの博心館利用料援助事業</u> : 支援対象家庭の児童(対象児童30名)は利用料無償とした。</p> <p><u>1-2 子どもの第三の居場所事業</u> : 当初 72 名(内、当該事業対象児童28名)→期末 77 名(内、当該事業対象児童30名)。</p> <p><u>1-3 子育てに関する相談</u> : 随時対応した。</p> <p><u>1-4 ひとり親家庭の親(特に母親)への子育て支援する</u> : 随時対応した。</p> <p><u>1-5 放課後児童健全育成の為の事業を検討する</u> : 2-1 として実行した。</p>	(A)通年 (B)博心館 (C) 従業員 13 名 ボランティア 27 名	(D)唐津市内の児童 (E) 77 名	4,175
②学力・人間力育成に関する事業	<p><u>2-1 こども塾の運営</u></p> <p><u>2-2 子どもの学習能力向上のための学習指導(宿題指導・読書・絵画・書道等)</u> : 上記のほか読み聞かせ、英語教室、ヨガ教室、体操教室、ライオンズクエスト等を行った。</p> <p><u>2-3 体験機会が少ない子どもに対しての体験の場の提供(海水浴・登山・農業体験・デイキャンプ等)</u> : 上記のほか県立宇宙科学館見学、ダイアログ・イン・ザ・ダーク等を行った。</p> <p><u>2-4 日本の伝統文化に触れながら日本人の精神を継承する活動(節分・七夕・門松作り等)</u> : 上記のほか三社参り、人形浄瑠璃体験、演劇体験、座禅体験、餅つき、夏祭り等を行った。</p> <p><u>2-5 各種学習(実験、工作等)</u> : 平日宿題後や土曜など随時、実施した。</p>	(A)通年 (B)博心館 (C)従業員 13 名 ボランティア 27 名	(D)唐津市内の児童 (E) 77 名	15,174

③ 子育て応援に関する事業	①子どもの貧困対策に関する事業として計画実行した。	(A)通年 (B)博心館 (C) 従業員 13 名 ボランティア 27 名	(D)唐津市内の児童 (E) 77 名	—
④ 国際交流に関する事業	<u>4-1 国際交流や語学学習を通し、唐津在住の外国人家庭の支援や子どものグローバル化に対応できる教養を支援</u> :2-2 として行った他、外国出身児童の言語の紹介、同児童への英語によるサポート等を行った。 <u>4-2 外国人との交流</u> :2-2 として行った他、WEB を介しての交流(フィリピン・ドイツ)を行った。 <u>4-3 在住外国人、訪日外国人に対する便宜増進を図る事業</u> :4-3 は、行わなかった。	(A)通年 (B)博心館 (C) 従業員 13 名 ボランティア 27 名	(D)唐津市内の児童及び外国人家庭 (E) 77 名	0
⑤ 地域コミュニティの醸成に関する事業	<u>5-1 地域コミュニティを醸成するイベント等に参加し、地域の活性化に寄与。</u> :地域イベントが新型コロナウイルス感染症の為に開催中止になり、参加できなかった。	(A)通年 (B)博心館 (C) 従業員 13 名 ボランティア 27 名	(D)唐津市内の児童 (E) 77 名	0
⑥ 他団体の活動支援に関する事業	本年度は実施なし。	—	—	—
⑦その他、会の目的達成のために必要な事業	<u>7-1 活動資金を確保するための事業開発</u> :当団体の目的・活動を広く広報し、個人・企業等からふるさと納税や寄付等を通して協賛を募り、団体の活動資金とする事業を行った。	(A)通年 (B)博心館 (C)従業員 13 名	(D)唐津市内の児童 (E) 77 名	13,617